

クラウド-ロボット間で ROS ノードが移行できるアーキテクチャ中立な ROS ランタイムの実現に向けた mROS2-POSIX の評価

1020259 中村 碧

指導教員：松原克弥

Aoi Nakamura

概要： ロボットソフトウェア開発において、ROS の利用が増加している。クラウド連携を用いた分散ロボットシステムの構築が主流だが、ノード配置の柔軟性が課題となっている。特に、クラウドとロボットの CPU アーキテクチャの違いから、動的なノード再配置が難しい。先行研究での動的配置機構はオーバーヘッドの増加が問題とされ、mROS 2-POSIX を用いたアプローチも提案されているが、評価は小規模アプリケーションに限定されている。本研究では、mROS 2-POSIX を用いて ROS 2 の性能を評価。通信性能やメモリサイズを基に、動的配置機構の可能性を検証する。

キーワード： ロボティクス, mROS2-POSIX

Abstract: In robot software development, the use of ROS is on the rise. While building distributed robot systems through cloud integration is popular, the flexibility in node placement remains a challenge. Specifically, the disparity in CPU architectures between the cloud and robots complicates dynamic node reallocation. Previous studies on dynamic placement mechanisms have reported increased overhead, and although approaches using mROS 2-POSIX have been proposed, evaluations have been limited to small-scale applications.

In this research, we evaluate the performance of ROS 2 using mROS 2-POSIX. Based on communication performance and memory size, we explore the potential of dynamic placement mechanisms.

Keywords: Roboethics, mROS2-POSIX

1 背景と目的

さまざまな産業向けやエンターテインメント関連のロボットシステム、自動車の自動運転技術や IoT システムの構築においても、これらのソフトウェア開発をサポートするフレームワークとして Robot Operating System (以下, ROS) の普及が増加している [1]。ROS のプログラミングモデルは、システムの各機能を独立したプログラムモジュール (ノード) として設計することにより、汎用性と再利用性を向上させて、各機能モジュール間のデータ交換を規定することで、効率的かつ柔軟なシステム構築を可能にしている。たとえば、カメラを操作して周囲の環境を撮影するノード、画像からオブジェクトを識別するノード、オブジェクトのデータを基に動作制御を実行するノードを連携させることで、自動運転車の基本機能の一部を容易に実装できる。

ROS のプログラミングモデルは、ロボット

/IoT とクラウドが協力する分散型システムにおいても有効である。ロボットシステムのソフトウェア処理は、外界の情報を取得する「センサー」取得した情報を処理する「知能・制御系」実際に動作するモーターなどの「動力系」の 3 要素に分類できる [2]。クラウドロボティクス [3] において、主に知能・制御系のノードを高い計算能力を持つクラウドに優先して配置することで、高度な知能・制御処理の実現を促進しできる。さらに、必要な情報をクラウドに集約・保存することで、複数のロボット間での情報共有と利用を容易にする。一方で、現行の ROS 実装においては、各ノードの配置をシステム起動時に設定する必要があり、先述のクラウドロボティクスのクラウドとロボット間の最適なノード配置を事前に設計する必要がある。しかし、実際の環境で動作するロボットは、ネットワークの状況やバッテリー残量の変動など、システム運用前に予測することが困難な状況変化に対応する必要があり、設定したクラウドとロボット間のノー

ド配置が最適でなくなる可能性がある。このような状況変化に対する対応として、ノードを動的に再配置するマイグレーション機能の実現が求められているが、多くの場合でクラウドとロボット間のCPUアーキテクチャが異なり、実行中のノードをシステム運用中にマイグレーションすることは技術的に困難である。

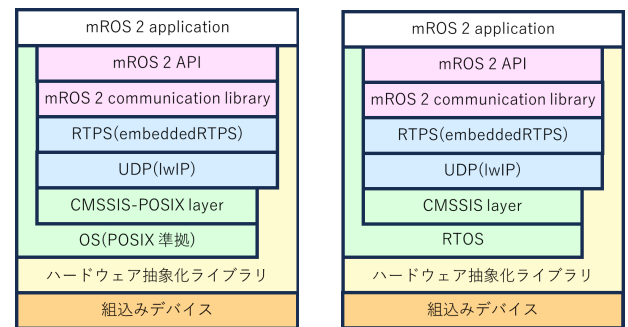
菅らは、WebAssembly（以下、Wasm）を用いることで、クラウドとロボット間での実行状態を含む稼働中ノードの動的なマイグレーションする手法を実現した [4]。課題として、ROS 2 を Wasm 化したことでオーバーヘッドが増大し、マイグレーション後、ノードの実行時間が大幅に増えてしまう問題が残った。柿本ら [5] は、組込みデバイス向け ROS 2 ランタイム実装である mROS 2-POSIX を採用し、ROS ランタイムの Wasm 化にともなうオーバーヘッド増加に対処した。しかし、採用された mROS 2-POSIX はごく小規模なアプリケーション上でしか評価実験は行われておらず [6]、動的配置機構を実装するソフトウェア基盤として mROS2 POSIX を採用する上で、アプリケーションの規模を増加させた評価実験は必要不可欠である。

本研究では、クラウドとロボット間での実行状態を含む稼働中ノードの動的マイグレーションの実現に向けた mROS 2-POSIX の性能評価を行い、mROS 2 が ROS 2 と比べて動的配置機構の実現のソフトウェア基盤としてどの点で優位性があるのか明らかにすることを目指す。

2 mROS2-POSIX

mROS 2 は、ROS 2 ノードの軽量実行環境である。mROS 2 は、中規模の組込みデバイス上で事項されるプログラムに汎用デバイス上の ROS 2 ノードと自律的に通信する機能を提供している。このソフトウェア基盤によって、分散型のロボットシステムへの組込み技術の導入できる。組込みデバイスは計算資源が限定的であるが、リアルタイム性の向上および消費電力が削減をできる。そして、mROS 2 が POSIX [7] に対応したのが mROS 2-POSIX である。

図 1 (a) は、mROS 2-POSIX のソフトウェア構成を示す。mROS 2-POSIX アプリケーション層は、ユーザが実装する ROS 2 ノードに相当する。mROS 2-POSIX API 層および通信ライブラリ層は、ROS 2 の topic に相当する API お



(a) mROS 2-POSIX の内部構成 (b) mROS 2 の内部構成

図 1 mROS 2-POSIX と mROS 2 のソフトウェア構成

よび通信機能を提供する階層である。本階層は、ROS 2 のネイティブなクライアント通信ライブラリである rclcpp と互換性を保つように設計している。mROS 2 通信ライブラリでは、rclcpp のうち pub/sub 通信の基本的な機能のみ実装されている。利用可能な機能は制限されているものの、組込み技術を導入する ROS 2 開発者は、汎用 OS 向けのプログラミングスタイルを踏襲しながら C++ によって mROS 2 のアプリケーションを実装できる。

Real Time Publish-Subscribe（以下、RTPS）プロトコルスタックには UDP でパブリッシャとサブスライバ C++ 実装の embeddedRTPS [8] が採用されている。また、RTPS における SPDP および SEDP が実装されているため、通信の自立性が実現できる。UDP については組込み向けの C 実装である lwIP が採用されている。また、これらの階層は CMSIS-POSIX API に依存している。通信層の embeddedRTPS および lwIP は CMSAIS-POSIX に依存しており、図 1 (b) に示す mROS 2 の CMSIS-RTOS を互換した層になっている。最下層にはハードウェアを抽象化したライブラリがある。

mROS 2-POSIX の実行方式は、mROS 2 が対応しているリアルタイム OS との相違がある。リアルタイム OS では、組込みマイコンを実行資源の管理対象として、タスク単位でアプリケーションが実行される。POSIX においてはタスクに相当する概念はプロセスであり、そこから生成されるスレッドを実行単位として処理が進行している。

したがって、mROS2-POSIX は図 2 に示す実

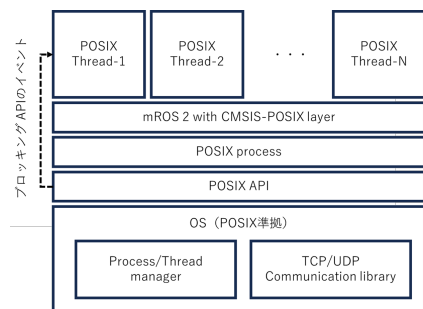


図2 mROS 2-POSIXの実行方式

行方式を採用している。mROS 2-POSIXの実行単位であるノードはPOSIXのスレッドに対応付けられており、mROS 2の通信ライブラリ機能を担う実行資源はPOSIXのプロセスとして捉え、これを管理対象としている。組込みマイコンでの通信処理におけるイベント割込みについては、POSIX準拠OSにおけるブロッキングAPIの発行に相当させて処理されている。

mROS 2とmROS 2-POSIXの機能構造の対応として、タスク管理機能は、スレッドの生成や開始などのPOSIX資源の管理機能に対応付けられている。メッセージキューおよびミューテックスによるスレッドの同期・通信および排他制御は、POSIXではPthreadによって対応している。メモリ管理機能はAlloc/Freeで、時間管理はOS時刻管理機能で対応している。lwIPにおけるUDPパケット処理は、POSIXにおけるOS資源の操作に関する機能で実現されている。

先行研究である菅ら[4]と柿本ら[5]は動的配置機構を実装する環境の想定として、クラウドのCPUアーキテクチャはx64 PC、組込みデバイスはarm64 RPi4上のUbuntuで動作することを想定している。mROS 2-POSIXはmROS 2とは違い、POSIXに準拠したUbuntuを動作させることができる。本研究では、mROS 2-POSIXとROS 2を比較評価し、その性能が動的配置機構の実現に向けたソフトウェア基盤として適切であるか評価する。

3 評価方針

mROS 2-POSIXを評価するにあたって、mROS2と同様のアプリケーションをROS 2に実装し、比較評価する。mROS 2は、ROS2に同様のアプリケーションを実装した場合でも期待される動作をすることができる。評価に使用するアプリケーションはSphero SPRK+とWii Fit Board

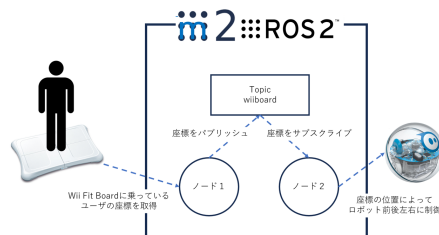


図3 実装するアプリケーション

を用いたロボット制御アプリケーションである。アプリケーションは、Wii Fit Boardはユーザの体重移動を検知し、Sphero SPRK+を前後左右に動かすことで、ユーザの体重移動に追従するように動作する。図3にアプリケーションの構造を示す。mROS 2-POSIXは、ごく小規模なアプリケーション上で評価されており、図3のようなハードウェアを通して利用されるアプリケーションの評価は行われていない。したがって、本研究では規模を大きくしたアプリケーションを実装し、mROS 2-POSIXの評価を行う。Wii Fit Boardに乗っているユーザの座標をパブリッシュするノードであると、Wii Fit Boardの座標があるトピックにサブスクライブし、受け取った値をもとにSphero SPRK+を動作させるノードの2つにわけられる。評価項目としては、mROS 2-POSIXがROS 2と比べてどの点で優位性があるのかを明らかにするため、以下の項目を設定した。

- 通信性能の評価
- メモリサイズの評価

通信性能の評価については、1回の通信をWii Fit Boardの値をサブスクライブするまでとし、それを100回行い、その平均と最大値と最小値と標準偏差を取ることで性能比較を行う。

メモリサイズの評価については、アプリケーションのバイナリをsizeコマンドで計測しそれぞれtext, data, bssのサイズを比較する。

4 評価アプリケーションの実装

ROS 2のアプリケーションは、Wii Fit Boardの値を取得するOSSをROS 2ノード化したものと、Sphero SPRK+を動作させることができるライブラリを提供しているOSSをROS 2ノード化して通信させている。mROS 2-POSIXのアプリケーションの実装はROS 2のアプリケーションの機能と同じものを実装する必要があるため、

同様のものを作成する。ROS 2 で動作するノードのソースコードはそのまま移植することはできないため、ROS 2 の `roscpp` ではなく mROS 2-POSIX 固有の API を使用して作成する必要がある。また、Sphero SPRK+ を動作させるライブラリは Python でコーディングされているため、C++ のみしか対応していない mROS 2-POSIX ではそのまま使用できないので、C++ のライブラリに書き換える必要がある。

5 進捗と計画

現在の進捗状況として、アプリケーションは ROS 2 で動作するノードの作成が完了した。mROS 2-POSIX 対応は未実現である。mROS 2-POSIX では、Wii Fit Board の値をパブリッシュするノードは移植することができた。Sphero SPRK+ のノードの移植は、ライブラリが Python で書かれているため、C++ に書き換える必要がある。

6 結言

本研究では、クラウドとロボット間での実行状態を含む稼働中ノードの動的マイグレーションの実現に向けた mROS 2-Posix の評価を行い、mROS 2 が ROS 2 と比べて動的配置機構の実現のソフトウェア基盤としてどの点で優位性があるのか明らかにすることを目指す。

動的配置機構の手法を ROS 2 環境で実現した菅ら [4] はオーバーヘッドの増加が課題であるとしている。柿本ら [5] は、mROS 2-POSIX を用いたアプローチを提案している。しかし、mROS 2-POSIX を評価している研究 [6] では ROS 2 と mROS 2-POSIX の通信性能とメモリサイズを評価しているが、ごく小規模なアプリケーションで評価を行っている。そのため、本研究では、mROS 2-POSIX を用いて ROS 2 の性能を評価。通信性能やメモリサイズを基に、動的配置機構の可能性を検証する。

7 知能システムコースにおける本研究の位置づけ

本研究は、ROS 2 の組込み向けデバイスでの実行環境である mROS 2-POSIX の評価を行うことで、クラウドとロボット間での実行状態を含む稼働中ノードの動的マイグレーションの実現に向けたソフトウェア基盤としての優位性を明らかにすることを目指している。その過程で、

mROS 2-POSIX で動作するロボット制御アプリケーションの実装を行い、アプリケーションの動作を評価することで、動的配置機構を実装するソフトウェア基盤として適切であるか評価する。そのため、知能システムコースのカリキュラムポリシーに記載のある「実世界への実装に関する具体的な課題に取り組み、その結果の評価を通じて、新しい方法論や学問領域を切り拓く能力を育む」に該当する。

参考文献

- [1] ROSWiki: ROS/Introduction, [url-http://wiki.ros.org/ROS/Introduction](http://wiki.ros.org/ROS/Introduction).
- [2] ロボット政策研究会: ロボット政策研究会 報告書 RT 革命が日本を飛躍させる, <https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/286890/www.meti.go.jp/press/20060516002/robot-houkokusho-set.pdf> (2006).
- [3] Kehoe et al. explored cloud-based robot grasping utilizing the Google object recognition engine, presenting their findings in the 2013 IEEE International Conference on Robotics and Automation, pages 4263-4270.
- [4] 菅文人, 松原克弥: クラウドロボティクスにおける異種デバイス間タスクマイグレーション機構の検討, 研究報告組込みシステム (EMB), Vol. 2022, No. 36, pp. 1-7 (2022).
- [5] 柿本翔大, 松原克弥: クラウド連携を対象としたアーキテクチャ中立な ROS ランタイムの実現, 情報処理学会研究報告, Vol. 2023-EMB-62, No. 51, pp. 1-7 (2023).
- [6] 高瀬英希, 田中晴亮, 細合晋太郎: ロボットソフトウェア軽量実行環境 mROS 2 の POSIX 対応に向けた実装および評価, 日本ロボット学会誌, Vol. 2023-EMB-41, No. 8, pp. 724-727 (2023).
- [7] POSIX: <https://www.ibm.com/docs/ja/zos/2.3.0?topic=ulero-posix>
- [8] A. Kampmann, et al.: "A Portable Implementation of the Real-Time Publish-Subscribe Protocol for Microcontrollers in Distributed Robotic Applications," Proc. of ITSC, pp. 443 - 448, 2019.